

シラバス（授業計画書）

科目名（ スポーツ健康学 I（保健体育） ）

学科名 鍼灸科

学年 1 年

1 授業の内容

これまでの学校体育では、経験できなかった内容で、自分の身体を思い通りに動かすことを目標とした神経系のトレーニングを中心に学習する。

2 到達目標

单元ごとの目標をクリアする。

3 授業の方法

実技中心で授業を展開します。

4 成績評価方法・基準

実技試験、小テスト、授業態度、授業の出席率をもとに総合的に評価する。

5 評価の際の特記事項

後期試験の点数を最終評価とする。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

実技試験に向けて練習を必ずしてください。

7 使用教材・教具

特になし。

8 学生へのメッセージ

年齢に関係なく取り組める神経系のトレーニングを体験し、それぞれの現場で活用するとともに、運動の大切さ・楽しさを学んでほしい。

9 教員氏名（ 井手 かおり ）

所 属（ Sports Club Olympier ）

10 特記事項

通常教員による授業科目

科目名(スポーツ健康学 I (保健体育))

回数	授業内容
1	オリエンテーション
2	実技試験説明, 練習
3	COT (ボール I) 小テスト説明
4	COT(ボール II)
5	COT(ボール III)
6	COT(ボール IV)
7	COT(ボール V)
8	COT(ボール) 小テスト
9	実技試験 I 中間チェック
10	COT (ロープ) 小テスト説明
11	COT (ロープ I)
12	COT(ロープ II)
13	COT(ロープ) 小テスト
14	実技試験 I 練習
15	定期試験 (実技試験)
16	まとめ
17	実技試験 II 説明
18	実技試験実力チェック
19	COT (用具なし I) 小テスト説明
20	COT(用具なし II)
21	COT(用具なし III)
22	COT(用具なし IV)
23	COT(用具なし V)
24	COT(用具なし) 小テスト
25	実技試験 II 中間チェック
26	COT (フープ I) 小テスト説明
27	COT(フープ II)
28	COT(フープ III)
29	COT(フープ) 小テスト
30	実技試験 II 練習
31	定期試験 (実技試験)
32	まとめ

シラバス（授業計画書）

科目名（ スポーツ健康学Ⅱ（生物学） ）

学科名 鍼灸科

学年 1 年

1 授業の内容

医療の基礎となる解剖学や生理学や病理学を理解する上で必要な生物の細胞において、細胞の構造、細胞の組織、DNA、遺伝、免疫についての基礎知識を学んでいく。

2 到達目標

生物学で用いる基本的な用語を理解し、解剖学・生理学・臨床医学・病理学などの学問を理解するための橋渡しを目指す。医療従事者として最低限の知識を習得する。

3 授業の方法

毎回プリントを配布し、それに解説を加えながら空欄を埋めることにより理解を図る。

4 成績評価方法・基準

前期では試験と平常点を勘案して成績を出し、後期でも同様とします。
最終的に、前期と後期の成績を平均して60%以上であれば合格とします。

5 評価の際の特記事項

毎時間小テストを行い、それを平常点とします。欠席が多いと当然小テストの点数が無くなり、平常点も減少します。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業時間を大切にすること。その日に学んだことはその時間内で理解するように心がけてください。それに加えて、その日のうちに思い起こし復習を行ってください。

7 使用教材、教具

「サイエンスビュー 生物総合資料」実教出版

8 学生へのメッセージ

最初は新しい言葉が沢山出てきてパニックになるかもしれませんが、重要な言葉は何度でも出てきます。それらを少しずつ覚えていくことで理解が急速に容易になるはずです。先ず用語の定義と理解です。前期は大変でも後期には必ず楽になります。諦めないことが大切です。夢に向かって頑張りましょう。

9 教員氏名（ 松尾 泰博 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校 非常勤講師 ）

10 特記事項

通常教員による授業科目

科目名 (スポーツ健康学Ⅱ (生物学))

回数	授業内容
1	生物学の歩み 生命の誕生と細胞の誕生
2	細胞成分, タンパク質, 糖質, 脂質
3	細胞の構造, 細胞小器官
4	細胞の構造, 細胞質基質, 細胞骨格, 細胞外基質
5	細胞膜, 浸透圧
6	細胞膜, 受動輸送, 能動輸送
7	消化管における受容器と吸収と血管
8	腎臓における再吸収と分泌と水の移動
9	エネルギーの獲得, 発酵, 嫌気呼吸細胞分裂, 体細胞分裂
10	エネルギーの獲得, 好気呼吸細胞分裂, 減数分裂
11	細胞分裂
12	遺伝, メンデルの法則
13	遺伝, 染色体と性
14	いろいろな遺伝
15	定期試験
16	試験解説 まとめ復習
17	DNAの発見と構造
18	DNAの複製と修復, PCR
19	RNAの種類と働き
20	タンパク質の合成
21	突然変異, 遺伝子変異とがん
22	バイオテクノロジー, 遺伝子組み換え, ゲノム編集
23	バイオテクノロジー, 遺伝子治療, 再生医療
24	バイオテクノロジー, ES細胞, iPS細胞, 幹細胞
25	生体防御システム
26	非特異的生体防御システムと炎症
27	特異的生体防御システムと液性免疫
28	特異的生体防御システムと細胞性免疫
29	アレルギー
30	自己免疫と疾患
31	定期試験
32	試験解説 まとめ復習

シラバス（授業計画書）

科目名（ スポーツ健康学Ⅲ（栄養学） ）

学科名 鍼灸科

学年 1 年

1 授業の内容

本科目では、健康増進やスポーツ活動を支える栄養について基本的な知識を習得し、人々の健康管理にかかわる専門職として、個々人の身体・栄養状況を把握できる能力を身につける。また、各種身体活動中のエネルギー消費や栄養素の消化・吸収・代謝の特性を理解し、ウエイトコントロール・期分け・運動時の水分補給などの意義と実際について理解を深め、コンディション維持およびトレーニング効果を高めるための栄養摂取や管理のあり方を学ぶ。

2 到達目標

運動と栄養のバランスを考え、自分自身で適切な栄養補給・食事を整えることができる。競技特性や状況に応じた栄養管理を考えることができるようになる。

3 授業の方法

スライド、スライド印刷資料を配付

4 成績評価方法・基準

試験と出席状況を勘案して評価する。

5 評価の際の特記事項

なし

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

毎授業後に出題する課題を中心に復習をすること。

7 使用教材，教具

教科書は使用しない。参考図書「イラスト スポーツ・運動と栄養」東京教学社（2020）

8 学生へのメッセージ

本講義では、スポーツ・運動と栄養に関する基本的な内容を学びますが、健康増進やスポーツパフォーマンス向上に対する誤った情報に惑わされることのないよう正しい知識を習得してもらいたいと思います。

9 教員氏名（ 小田 和人 ）

所 属（ 長崎国際大学 健康管理学部健康栄養学科 ）

10 特記事項

通常教員による授業科目

科目名 (スポーツ健康学Ⅲ (栄養学))

回数	授業内容
1	ガイダンス (健康増進と食生活, 競技選手の適切な栄養補給の必要性と考え方)
2	栄養学の基礎知識① (糖質、食物繊維)
3	栄養学の基礎知識② (脂質)
4	栄養学の基礎知識③ (たんぱく質)
5	栄養学の基礎知識④ (ビタミン、ミネラル)
6	エネルギー代謝・身体組成
7	バランスのとれた食事の基本
8	スポーツ栄養におけるガイドライン
9	期分け別 (試合・遠征・オフ期) の食事管理
10	身体づくり, ウェイトコントロールのための食事
11	アスリートに多く見られる栄養障害とその対策 (貧血・骨障害)
12	世代や性別による栄養摂取上の注意点
13	サプリメントとドーピングについて
14	まとめ
15	定期試験
16	答案返却および解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ スポーツ健康学Ⅳ（コミュニケーション） ）

学科名 鍼灸科

学年 1 年

1 授業の内容

臨床心理学に関わる知識と理論を学習し、より良い健康的な心の状態を知り、診断や治療の場面でのコミュニケーション能力の向上をはかる。

2 到達目標

人格の成り立ちや心の問題を考えることで、そのメカニズムを理解し、会話力を使った具体的援助の理論とスキルを身につける。

3 授業の方法

診断や治療における会話場面に必要な基礎理論とスキルを板書に具体的にまとめながら説明していくので、各自こころの動きを感じ理解しながら、ノートに重点を整理し、後で復習できるような参考書的なノート作成を心掛けてほしい。

4 成績評価方法・基準

定期試験、レポート・ノートをもとに総合的に評価する。

5 評価の際の特記事項

ノートが、実際の場面に利用できるように分かりやすくきちんと整理され、これからの心理的問題に対応できるよう参考書的にまとめられているかを評価します。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

下記の参考書などを読み、ノートにまとめた“心に関する理論”を実際の生活場面で使っていく事が、コミュニケーションスキルを身につける早道になります。

7 使用教材，教具

参考図書「こころとかかわる臨床心理（基礎・実際・方法）」第2版
著者 川瀬正裕，松本真理子，松本英夫（ナカニシヤ出版）

8 学生へのメッセージ

自分自身の心の状態を意識し、内なる人間性を感じて、授業内容を理解してほしい。

9 教員氏名（ 苑田 俊明 ）

所 属（ 長崎県・佐賀県教育委員会，長崎県臨床心理士会 ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名 (スポーツ健康学Ⅳ (コミュニケーション))

回数	授業内容
1	治療者の心の健康の必要性
2	①心について ②健康な心について
3	クライアントの不適応について
4	①適応状態について ②本当の「治る」とは
5	アセスメントに必要なコミュニケーションスキル
6	①治療者の純粋性 主観と客観の心
7	②共感と受容 ③開かれた質問と閉じた質問
8	治療者の自我と自己について考える
9	人間を理解するための人格理論から会話スキルを学ぶ
10	「心の発達理論」から会話スキルを学ぶ
11	エリクソンの心理社会的発達理論について
12	いろいろな心理療法から、コミュニケーションスキルを学ぶ
13	認知行動療法について
14	ストレスマネジメントについて
15	定期試験
16	答案返却および解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ スポーツ健康学Ⅴ（体力学） ）

学科名 鍼灸科

学年 1 年

1 授業の内容

- ストレッチ
- 筋力トレーニング
- スクエアステップ

2 到達目標

单元ごとの目標をクリアする。

3 授業の方法

実技中心。

4 成績評価方法・基準

実技試験、小テスト、授業態度、授業の出席率をもとに総合的に評価する。

5 評価の際の特記事項

授業の出席率、態度。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

ストレッチ・筋力トレーニングの実践。

7 使用教材・教具

なし

8 学生へのメッセージ

健康の保持増進のためのストレッチや筋力トレーニングの方法を理解し、実践してほしい。

9 教員氏名（ 井手 かおり ）

所 属（ Sports Club Olympier ）

10 特記事項

通常教員による授業科目

科目名(スポーツ健康学V (体力学))

回数	授業内容
1	実技試験説明、可動域・筋力チェック
2	4スタンス
3	小テスト説明・筋力トレⅠ・ストレッチⅠ
4	筋力トレーニングⅡ・ストレッチⅡ
5	筋力トレーニングⅢ・ストレッチⅢ
6	筋力トレーニングⅣ・ストレッチⅣ
7	筋力トレーニングⅤ・ストレッチⅤ
8	筋力トレーニングⅥ
9	ストレッチⅥ
10	筋力トレーニングⅦ
11	ストレッチⅦ
12	肩甲骨・股関節
13	PNFストレッチ
14	可動域・筋力チェック
15	定期試験(実技試験)
16	まとめ

シラバス (授業計画書)

科目名 (解剖学 I)

学科名 鍼灸科

学年 1 年

1 授業の内容

- ・骨と筋の構造について用いて学ぶ。
- ・骨指標や特徴，筋の起始停止・支配神経・作用について学ぶ。

2 到達目標

- ・骨の名称を全て覚え，骨指標や特徴を説明できる。
- ・主要な筋の起始停止・支配神経・作用を説明できる。

3 授業の方法

- ・配布プリントを使用して，講義を実施する。
- ・毎回，小テストを行う。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

前期と後期それぞれ定期試験を行い，最終的に前期と後期の定期試験の平均点を成績評価とする。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

教科書，授業資料での予習・復習を行うこと。調べて不明な点は質問に来ること。

7 使用教材，教具

「解剖学 第2版」 医歯薬出版株式会社

8 学生へのメッセージ

解剖学では，からだの構造を学びます。覚えることが多く，苦勞するかもしれませんが，繰り返し学習してください。言葉だけで覚えようとせず，解剖図と合わせて理解してください。

9 教員氏名（ 伊藤 元太郎 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校 鍼灸科 ）

実務経験の詳細（ 鍼灸院にて施術者として勤務。患者への鍼灸治療経験をもとに講義を行う。 ）

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

科目名 (解剖学 I)

回数	授業内容
1	骨格系総論 骨構造の全体像
2	上肢骨 (1) 上肢帯 (上肢帯の骨構造)
3	上肢骨 (2) 自由上肢① (上腕・前腕の骨構造)
4	上肢骨 (3) 自由上肢② (手部の骨構造)
5	下肢骨 (1) 下肢帯 (下肢帯の骨構造)
6	下肢骨 (2) 自由下肢① (大腿・下腿の骨構造)
7	下肢骨 (3) 自由下肢② (足部の骨構造)
8	脊柱の骨構造
9	胸郭の骨構造
10	頭蓋骨 (1) 脳頭蓋の骨構造
11	頭蓋骨 (2) 顔面頭蓋の骨構造
12	上肢の骨と筋 全体像
13	下肢の骨と筋 全体像
14	体幹の骨と筋 全体像
15	定期試験
16	答案返却および解説
17	筋系 総論
18	上肢の筋 (1) 上肢帯, 上腕屈筋・伸筋
19	上肢の筋 (2) 前腕屈筋
20	上肢の筋 (3) 前腕伸筋
21	下肢の筋 (1) 下肢帯
22	下肢の筋 (2) 大腿伸筋・屈筋・内転筋
23	下肢の筋 (3) 下腿伸筋・屈筋・腓骨筋群
24	体幹の筋 (1) 胸部, 腹部
25	体幹の筋 (2) 背部
26	頭頸部の筋 (1) 表情筋
27	頭頸部の筋 (2) 咀嚼筋, 頸部の筋
28	後期まとめ (1) 上半身の筋
29	後期まとめ (2) 下半身の筋
30	後期まとめ (3) 頭頸部の筋
31	定期試験
32	答案返却および解説

シラバス (授業計画書)

科目名 (生理学 I)

学科名 鍼灸科

学 年 1 年

1 授業の内容

本授業では、生命現象（呼吸や循環などのメカニズム）を通じて人体の機能について学んでいきます。

2 到達目標

人体の細胞や器官の機能を理解し、調和の取れた個体の生命現象を総合的にとらえることができる。

3 授業の方法

配布プリントを中心に講義を行う。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

前期と後期それぞれ定期試験を行い、最終的に前期と後期の定期試験の平均点を成績評価とする。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

各章の学習後に小テストを実施します。毎回の復習を心がけてください。

7 使用教材，教具

「生理学」医歯薬出版

「生理学インパクト」医道の日本社

8 学生へのメッセージ

鍼灸治療を行っているとき「どのようなメカニズムで効果がでるのか。」と患者さんに聞かれる場面があります。生理学で人体のメカニズムを学び、そういった質問や疑問に答えられるよう、臨床に役立つ知識を伝えたいと思います。

9 教員氏名 (宮田 純)

所 属 (ころ医療福祉専門学校 鍼灸科)

実務経験の詳細 (鍼灸院にて施術者として勤務。患者への鍼灸治療経験をもとに講義を行う。)

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

科目名 (生理学 I)

回数	授業内容
1	第1章 生理学の基礎 (1) 生理機能の特徴, 細胞の構造と機能
2	第1章 生理学の基礎 (2) 解糖系と内呼吸, 体液の組成と働き 物質の移動
3	第2章 循環 血液編 (1) 血液の組成
4	第2章 循環 血液編 (2) 止血の機序 (一次止血, 血液凝固, 線溶系) 血液型
5	第2章 循環 循環編 (1) 心臓血管系 心臓の構造と働き
6	第2章 循環 循環編 (2) 血液循環
7	第2章 循環 循環編 (3) 循環調節 リンパ系
8	第3章 呼吸 (1) 呼吸器について
9	第3章 呼吸 (2) 換気とガス交換について
10	第3章 呼吸 (3) 呼吸運動
11	第4章 消化と吸収 (1) 消化と吸収 消化管の運動
12	第4章 消化と吸収 (2) 消化液
13	第4章 消化と吸収 (3) 吸収 肝臓の働き 摂食の調節
14	第4章 消化と吸収 (4) 消化管ホルモンについて
15	定期試験
16	答案返却および解説
17	第5章 代謝 (1) 栄養素について 代謝について
18	第5章 代謝 (2) 各栄養素の働きと代謝
19	第6章 体温 (1) 体温調節
20	第6章 体温 (2) 体熱の産生と放散 発汗とその調節
21	第7章 排泄 (1) 腎臓の働き
22	第7章 排泄 (2) 腎循環 尿生成
23	第7章 排泄 (3) 腎臓と体液の調節 畜尿と排尿
24	第8章 内分泌 (1) ホルモンの特徴 視床下部と下垂体
25	第8章 内分泌 (2) 視床下部ホルモン, 下垂体ホルモン, 甲状腺ホルモン
26	第8章 内分泌 (3) 副甲状腺ホルモン, 膵臓ホルモン
27	第8章 内分泌 (4) 副腎のホルモン
28	第8章 内分泌 (5) 性ホルモン, その他のホルモン
29	第9章 生殖・成長と老化 (1) 生殖 妊娠 出産
30	第9章 生殖・成長と老化 (2) 成長 老化
31	定期試験
32	答案返却および解説

シラバス (授業計画書)

科目名 (解剖生理学 I)

学科名 鍼灸科

学年 1 年

1 授業の内容

- ・人体を構成する細胞や組織の構造について学ぶ。
- ・骨と筋を触れながら構造と機能について学ぶ。

2 到達目標

- ・細胞, 組織の特徴を説明できる。
- ・骨と筋の構造や機能を説明できる。

3 授業の方法

配付プリントを使用して, 講義を実施する。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

前期と後期それぞれ定期試験を行い, 最終的に前期と後期の定期試験の平均点を成績評価とする。

6 授業時間外学習 (予習・復習等) の具体的内容

教科書, 授業資料での予習・復習を行うこと。調べて不明な点は質問に来ること。

7 使用教材, 教具

「解剖学 第2版」 医歯薬出版株式会社

8 学生へのメッセージ

骨に触れ, 筋肉を動かしながら, 構造と機能を学びます。文字だけで覚えるのではなく, 視覚的や触覚的に覚えましょう。

9 教員氏名 (伊藤 元太郎)

所 属 (ころ医療福祉専門学校 鍼灸科)

実務経験の詳細 (鍼灸院にて施術者として勤務。患者への鍼灸治療経験をもとに講義を行う。)

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

科目名 (解剖生理学 I)

回数	授業内容
1	人体の構成 (1) 細胞
2	人体の構成 (2) 組織 (上皮組織)
3	上肢骨の触診 (1) 上肢帯
4	上肢骨の触診 (2) 上腕
5	上肢骨の触診 (3) 前腕
6	下肢骨の触診 (1) 下肢帯
7	下肢骨の触診 (2) 大腿
8	下肢骨の触診 (3) 下腿
9	脊柱の触診①
10	脊柱の触診②
11	胸郭の触診
12	頭蓋骨の触診
13	まとめ (1) 上半身
14	まとめ (2) 下半身
15	定期試験
16	答案返却および解説
17	ランドマークの触診
18	筋の触診 (1) 上肢帯の筋
19	筋の触診 (2) 上腕の屈筋
20	筋の触診 (3) 上腕の伸筋
21	筋の触診 (4) 前腕の屈筋
22	筋の触診 (5) 前腕の伸筋
23	筋の触診 (6) 下肢帯の筋
24	筋の触診 (7) 大腿の屈筋
25	筋の触診 (8) 大腿の伸筋
26	筋の触診 (9) 下腿の屈筋
27	筋の触診 (10) 下腿の伸筋
28	筋の触診 (11) 背部の筋 (浅層)
29	筋の触診 (12) 背部の筋 (深層)
30	まとめ
31	定期試験
32	答案返却および解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 衛生学・公衆衛生学 ）

学科名 鍼灸科

学 年 1 年

1 授業の内容

予防医学，環境改善，生活水準の保障，健康教育，精神保健，産業保健，感染症などを学習する

2 到達目標

衛生学・公衆衛生学の分野に関して，集団の健康と疾病予防，疫学と保健対策等について基本的知識を習得する。

3 授業の方法

配布プリントを中心に講義を行う。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）

各単元終了後に小テストを行いますので，配布資料の復習をしてください。

7 使用教材，教具

「シンプル衛生公衆衛生学」南江堂

「公衆衛生学がみえる」メディックメディア

8 学生へのメッセージ

衛生学は疾病予防と健康の保持・増進のための学習であり，この知識は個人だけでなく自身を取り巻く集団の健康にとっても重要なものとなります。医療従事者として関心を持って授業に取り組んでください。

9 教員氏名（ 宮田 純 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校 鍼灸科 ）

実務経験の詳細（ 鍼灸院にて施術者として勤務。患者への鍼灸治療経験をもとに講義を行う。 ）

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

科目名 (衛生学・公衆衛生学)

回数	授業内容
1	公衆衛生学序論
2	疾病予防と健康管理
3	地域保健と保健行政
4	ライフスタイルと健康
5	環境保健
6	産業保健
7	精神保健
8	母子保健
9	学校保健
10	成人・高齢者保健
11	感染症とその対策
12	消毒法
13	疫学
14	保健統計
15	定期試験
16	答案返却および解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 基礎はりきゅう学Ⅰ（東洋医学概論Ⅰ） ）

学科名 鍼灸科

学 年 1 年

1 授業の内容

・人体のしくみについて、東洋医学ではどのように考えられているのかを学ぶ。

2 到達目標

・人体を構成している生体物質や臓腑の働きを理解する。

3 授業の方法

教科書，配布プリントで行う。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

前期と後期それぞれ定期試験を行い、最終的に前期と後期の定期試験の平均点を成績評価とする。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

教科書・配布プリントでの予習・復習，国家試験過去問集での復習を行うこと。

7 使用教材，教具

「新版 東洋医学概論」医道の日本社

8 学生へのメッセージ

東洋医学は、昔から積み上げられてきた臨床経験をもとに体系化された医学です。科学がない時代に、人間の身体についてどのように考えられていたのか、どのように病を治していたのか。当時の生活を想像しながら学びましょう。

9 教員氏名（ 山口 侃太 ）

所 属（ ところ医療福祉専門学校 鍼灸科 ）

実務経験の詳細（ 鍼灸院にて施術者として勤務。患者への鍼灸治療経験をもとに講義を行う。 ）

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

科目名 (基礎はりきゅう学 I (東洋医学概論 I))

回数	授業内容
1	第1章 東洋医学の特徴
2	第2章 (1) 精・気
3	第2章 (2) 血・津液
4	第2章 (3) 神
5	第2章 (4) 人体における陰陽
6	第2章 (5) 肝系統
7	第2章 (6) 心系統
8	第2章 (7) 脾系統
9	第2章 (8) 肺系統
10	第2章 (9) 腎系統
11	第2章 (10) 五臓の相互関係
12	第2章 (11) 六腑の協調関係
13	第2章 (12) 全身の気機
14	第2章 (13) 経絡
15	定期試験
16	答案返却および解説
17	第2章 (14) 外感病因
18	第2章 (15) 内傷病因
19	第2章 (16) 伝変と波及
20	第2章 (17) 内生五邪
21	第3章 (1) 陰陽学説
22	第3章 (2) 五行学説
23	第4章 (1) 望診
24	第4章 (2) 聞診
25	第4章 (3) 問診の進め方
26	第4章 (4) 主訴
27	第4章 (5) 基本的問診事項
28	第4章 (6) その他の問診事項
29	第4章 (7) 反応・腹診
30	第4章 (8) 脈診
31	定期試験
32	答案返却および解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 基礎はりきゅう学Ⅱ（歴史） ）

学科名 鍼灸科

学 年 1 年

1 授業の内容

自然や人体についての、東洋医学的な捉え方を学ぶ。

2 到達目標

・生理物質や臓腑の働き、五行色体表を全て覚える。

3 授業の方法

教科書，配布プリントで行う。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

前期と後期それぞれ定期試験を行い、最終的に前期と後期の定期試験の平均点を成績評価とする。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

教科書・配布プリントでの予習・復習，国家試験過去問集での復習を行うこと。

7 使用教材，教具

「新版 東洋医学概論」医道の日本社

8 学生へのメッセージ

東洋医学は，自然と人間との関わりを大切にしています。物事を二つに分ける陰陽，五つに分ける五行を知り，それを医学にどう生かしてきたのかを学びましょう。人間が自然から受ける影響，病の種類，表れる症状について理解し，東洋医学の眼で患者さんを診られるようになりましょう。

9 教員氏名（ 山口 侃太 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校 鍼灸科 ）

実務経験の詳細（ 鍼灸院にて施術者として勤務。患者への鍼灸治療経験をもとに講義を行う。 ）

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

科目名（ 基礎はりきゅう学Ⅱ（歴史） ）

回数	授業内容
1	第1章 東洋医学の特徴
2	第2章（1）精・気
3	第2章（2）血・津液
4	第2章（3）神
5	第2章（4）人体における陰陽
6	第2章（5）肝系統
7	第2章（6）心系統
8	第2章（7）脾系統
9	第2章（8）肺系統
10	第2章（9）腎系統
11	第2章（10）五臓の相互関係
12	第2章（11）六腑の協調関係
13	第2章（12）全身の気機
14	第2章（13）経絡
15	定期試験
16	答案返却および解説
17	第2章（14）外感病因
18	第2章（15）内傷病因
19	第2章（16）伝変と波及
20	第2章（17）内生五邪
21	第3章（1）陰陽学説
22	第3章（2）五行学説
23	第4章（1）望診
24	第4章（2）聞診
25	第4章（3）問診の進め方
26	第4章（4）主訴
27	第4章（5）基本的問診事項
28	第4章（6）その他の問診事項
29	第4章（7）反応・腹診
30	第4章（8）脈診
31	定期試験
32	答案返却および解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 基礎はりきゅう学Ⅲ（経絡経穴概論） ）

学科名 鍼灸科

学 年 1 年

1 授業の内容

鍼灸師として必須の知識である経絡経穴について学習する。

2 到達目標

- ・経絡系統の分類，骨度法を言える。
- ・十四経脈の経穴を書けて，言えて，取穴できる。

3 授業の方法

教科書，配布プリント，パワーポイントによる講義と取穴練習

4 成績評価方法・基準

定期試験と口頭試験で総合的に評価する。（後期試験の点数を最終評価とする）

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

経絡経穴は毎日勉強することが習得の近道です。毎日短時間でも集中し，隙間時間と視覚・聴覚を有効に使って学習しましょう。

7 使用教材，教具

「新版経絡経穴概論第2版」医道の日本社

8 学生へのメッセージ

まずはすべての経絡・経穴を頭に入れていきましょう。1年間で覚えきる覚悟で臨んでください。また，担当教員の実体験も交えて，臨床に役に立ち，なおかつ国家試験にも対応できる知識を伝えたいと思います。

9 教員氏名（ 高橋 美如 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校 鍼灸科 ）

実務経験の詳細（鍼灸院にて施術者として勤務。患者への鍼灸治療経験をもとに講義を行う。）

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

科目名 (基礎はりきゅう学Ⅲ (経絡経穴概論))

回数	授業内容
1	授業説明 (シラバス, 小テスト, 評価, 授業の受け方), 教科書を使いやすくする
2	経絡・経穴の基礎 (1) ツボって何?
3	経絡・経穴の基礎 (2) 骨度法, 体標指標, 要穴の概略
4	督脈 解説
5	督脈 取穴練習
6	任脈 解説・取穴練習
7	手の太陰肺経 解説・取穴練習
8	手の陽明大腸経 解説・取穴練習
9	足の陽明胃経① 解説・取穴練習 (承泣～気衝)
10	足の陽明胃経② 解説・取穴練習 (髀關～厲兌)
11	足の太陰脾経 解説
12	足の太陰脾経 取穴練習
13	手の少陰心経 解説・取穴練習
14	手の太陽小腸経 解説・取穴練習
15	定期試験
16	答案返却および解説
17	足の太陽膀胱経① 解説・取穴練習 (睛明～天柱)
18	足の太陽膀胱経② 解説・取穴練習 (大杼～委中)
19	足の太陽膀胱経③ 解説・取穴練習 (大杼～至陰)
20	足の少陰腎経 解説
21	足の少陰腎経 取穴練習
22	手の厥陰心包経 解説・取穴練習
23	手の少陽三焦経 解説・取穴練習
24	足の少陽胆経① 解説・取穴練習 (瞳子髎～風池)
25	足の少陽胆経② 解説・取穴練習 (肩井～足竅陰)
26	足の少陽胆経③ 解説・取穴練習
27	足の厥陰肝経 解説
28	足の厥陰肝経 取穴練習
29	奇穴
30	奇経八脈・現代的研究
31	定期試験
32	答案返却および解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 基礎はりきゅう学Ⅳ ）

学科名 鍼灸科

学 年 1 年

1 授業の内容

鍼灸師として必須の知識である経絡経穴を学習する。基礎はりきゅう学Ⅲ（経絡経穴概論）と連動する科目として行う。

2 到達目標

経絡経穴の基礎，十四経脈，要穴を理解し，書ける。

3 授業の方法

教科書，配布プリント，パワーポイントによる講義

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%（後期試験の点数を最終評価とする）

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

毎日，教科書や要穴表を見て，習得できているか確かめる。

7 使用教材，教具

「新版経絡経穴概論第2版」医道の日本社

8 学生へのメッセージ

経絡・経穴を1年間で覚えきる覚悟で臨んでください。声に出しながら，自分や知人の身体で取穴練習すると暗記しやすいです。また，担当教員の実体験も交えて，臨床に役に立ち，なおかつ国家試験にも対応できる知識を伝えたいと思います。

9 教員氏名（ 高橋 美如 ）

所 属（ ところ医療福祉専門学校 鍼灸科 ）

実務経験の詳細（鍼灸院にて施術者として勤務。患者への鍼灸治療経験をもとに講義を行う。）

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

科目名 (基礎はりきゅう学Ⅳ)

回数	授業内容
1	授業説明, 教科書を見やすくする
2	経絡経穴の基礎
3	国家試験について
4	督脈 解説
5	督脈 確認プリント
6	任脈 確認プリント
7	手の太陰肺経 確認プリント
8	手の陽明大腸経 確認プリント
9	足の陽明胃経① 確認プリント (承泣～気衝)
10	足の陽明胃経② 確認プリント (髀関～厲兌)
11	足の太陰脾経 確認プリント
12	手の少陰心経 確認プリント
13	手の太陽小腸経 確認プリント
14	前期まとめ
15	定期試験
16	答案返却および解説
17	足の太陽膀胱経① 確認プリント
18	足の太陽膀胱経② 確認プリント, 横並び説明
19	足の少陰腎経 確認プリント
20	手の厥陰心包経 確認プリント
21	手の少陽三焦経 確認プリント
22	足の少陽胆経 確認プリント
23	足の厥陰肝経 確認プリント
24	経穴カルタ① (要穴) 肺経・大腸経
25	経穴カルタ② (要穴) 胃経・脾経
26	経穴カルタ③ (要穴) 心経・小腸経
27	経穴カルタ④ (要穴) 膀胱経・腎経
28	経穴カルタ⑤ (要穴) 心包経・三焦経
29	経穴カルタ⑥ (要穴) 胆経・肝経
30	要穴まとめ
31	定期試験
32	答案返却および解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ はりきゅう実技Ⅰ ）

学科名 鍼灸科

学 年 1 年

1 授業の内容

経穴（あるいは目的とした筋）に対して、適切な消毒、刺鍼、抜鍼までの操作が安全にできるようになることを目的とする。

2 到達目標

- ・治療家として必要な衛生観念を養い清潔感のある身だしなみを整えることができる。
- ・刺鍼動作を適切に行い、指定した角度と目的の深さに安全に鍼を刺入できる。

3 授業の方法

担当教員の実務経験をもとに、実務に必要な技術・知識の習得を促す。実技室にて、ディスプレイブルステンレス鍼を用いて実技を行う。課題となる経穴に指定された角度、深度に刺入する。

4 成績評価方法・基準

実技試験 100%

5 評価の際の特記事項

前期と後期それぞれ実技試験を行い、最終的に前期と後期の実技試験の平均点を成績評価とする。

6 授業時間外学習（予習・復習等）

指定された実技課題ができるようになるまで、授業外で繰り返し練習をすること。

7 使用教材，教具

「はりきゅう実技 基礎編」医道の日本社、
「新版 経絡経穴概論第2版」医道の日本社
セイリン ディスposableステンレス鍼各種

8 学生へのメッセージ

鍼の刺鍼技術を獲得するには反復練習が大切です。刺鍼練習器を使って自宅でも積極的に練習して下さい。

9 教員氏名（ 宮田 純 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校 鍼灸科 ）

実務経験の詳細（ 鍼灸院にて施術者として勤務。患者への鍼灸治療経験をもとに講義を行う。 ）

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

科目名 (はりきゅう実技 I)

回数	授業内容
1	オリエンテーション、衛生管理（手洗い、消毒について）
2	鍼の種類と刺法について、施術における体位とタオルワーク
3	前揉法と後揉法 片手挿管（1）
4	押し手と刺し手 片手挿管（2）
5	弾入と切皮 片手挿管（3）
6	片手挿管の確認
7	刺鍼練習器に対する送りこみ刺法（1）直刺
8	刺鍼練習器に対する送りこみ刺法（2）斜刺
9	刺鍼練習器に対する送りこみ刺法（3）横刺
10	下肢の自己刺鍼（1） 送り込み刺法の確認
11	下肢の自己刺鍼（2） 直刺
12	下肢の自己刺鍼（3） 斜刺
13	下肢の自己刺鍼（4） 旋捻刺法
14	試験範囲の復習
15	実技試験（定期試験）
16	実技試験のフィードバック
17	対人刺鍼（1）下腿前面・外側部の刺鍼
18	対人刺鍼（2）下腿内側・後面部の刺鍼
19	対人刺鍼（3）前腕前面・外側部の刺鍼
20	対人刺鍼（4）腰部の刺鍼
21	対人刺鍼（5）腰部の刺鍼
22	対人刺鍼（6）中背部の刺鍼
23	対人刺鍼（7）殿部の刺鍼
24	対人刺鍼（8）殿部・股関節部の刺鍼
25	対人刺鍼（9）肩甲部の刺鍼
26	対人刺鍼（10）上背部の刺鍼
27	対人刺鍼（11）肩部・後頸部の刺鍼
28	対人刺鍼（12）下腿の刺鍼復習
29	対人刺鍼（13）前腕の刺鍼復習
30	対人刺鍼（14）試験範囲の復習
31	実技試験（定期試験）
32	実技試験のフィードバック

シラバス（授業計画書）

科目名（ はりきゅう実技Ⅱ ）

学科名 鍼灸科

学 年 1 年

1 授業の内容

- ・施灸の基礎技術および患者対応の基本を学び修得する。
- ・施灸の基本動作を繰り返し練習し、安全かつスムーズな施灸を目指す。

2 到達目標

- ・板上施灸で、前期は3分間20壮、後期は3分間30壮できる。
- ・対人施灸で、指定経穴に施灸し、部位を答えられる。
- ・施術者として相手への気遣いおよび自己管理ができる。

3 授業の方法

- ・担当教員の実務経験を基に、基礎技術および知識の習得を促す。そのため、実技室を鍼灸院と想定して実施する。相手を患者として、声掛けやタオルワーク、施灸を行う。
- ・施灸は板上から始めて、自分、対人と段階的に進行し、実際の施術に近づけていく。

4 成績評価方法・基準

実技試験 100%（後期試験の点数を最終評価とする）

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

技能の向上のために、自主トレーニングを積み、授業に臨むこと。

7 使用教材，教具

「はりきゅう実技基礎編」，「新版経絡経穴概論」（医道の日本社）

8 学生へのメッセージ

臨床でお灸を希望する患者さんはたくさんいらっしゃいます。まずは施灸の基礎技術を習得し、あわせて臨床で役に立つ灸法を実践できるようになっていきましょう。

9 教員氏名（ 高橋 美如 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校 鍼灸科 ）

実務経験の詳細（鍼灸院にて施術者として勤務。患者への鍼灸治療経験をもとに講義を行う。）

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

科目名 (はりきゅう実技Ⅱ)

回数	授業内容
1	授業説明, 実技道具の配布, お灸って何?
2	道具の準備, 板の線引き, 艾を立ててみよう, 艾のひねり方, 爪の整え方
3	線香の持ち方, 点火, 灰のはらい方
4	実技室の使い方, 実技受講のルール, 板上施灸の仕方
5	板上施灸(1) 練習の仕方
6	板上施灸(2) 時間を測る
7	板上施灸(3) 中間チェック
8	自己施灸(1) 知熱灸(知熱灸とは, 合谷, 手三里, 陽溪, 曲池, 尺沢)
9	自己施灸(2) 知熱灸(合谷, 手三里, 陽溪, 曲池, 尺沢)
10	自己施灸(3) 知熱灸(足三里, 犢鼻, 解溪, 陰陵泉, 三陰交, 血海, 太衝)
11	自己施灸(4) 知熱灸 上肢・下肢
12	自己施灸(5) 知熱灸 2人組
13	自己施灸(6) 知熱灸 3人組
14	自己施灸(7) 知熱灸 試験練習
15	実技試験(定期試験)
16	実技試験フィードバック
17	対人施灸(1) 背部の体表指標, 背部灸穴取穴
18	対人施灸(2) 背部灸穴に施灸
19	対人施灸(3) 胃の六つ灸取穴
20	対人施灸(4) 胃の六つ灸施灸
21	対人施灸(5) 背部灸穴取穴
22	対人施灸(6) 台座灸①
23	対人施灸(7) 台座灸②
24	対人施灸(8) 透熱灸
25	対人施灸(9) 灸点紙灸
26	艾作成(1) 艾の作り方, よもぎ茎とり, 手もみ, ふるい
27	艾作成(2) 低精製艾作成
28	艾作成(3) 高精製艾作成
29	対人施灸(10) 塩灸
30	対人施灸(11) 試験練習
31	実技試験(定期試験)
32	実技試験フィードバック

シラバス（授業計画書）

科目名（ はりきゅう実技Ⅲ（臨床実習前施術実技試験） ）

学科名 鍼灸科

学年 1 年

1 授業の内容

- ・臨床実習の事前準備として、施術を想定した触診練習を繰り返し行い、安全に施術するための基礎技術を身につける。
- ・患者と良好な関係を構築するために、医療従事者としての基本的な態度を学ぶ。

2 到達目標

- ・臨床現場を想定した準備、言葉遣い、患者誘導、タオルワークができる。
- ・前期で得た知識・技術をもとに、的確で安全な触診が素早くできる。

3 授業の方法

実技を中心に、座学やグループワークも行います。

4 成績評価方法・基準

小テスト 100%

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）

その日学習した内容を復習すること。

7 使用教材，教具

「解剖学 第2版」 医歯薬出版株式会社

8 学生へのメッセージ

臨床現場を意識して、実際の患者対応を念頭において取り組みましょう。

9 教員氏名（ 伊藤 元太郎 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校 鍼灸科 ）

実務経験の詳細（鍼灸院にて施術者として勤務。患者への鍼灸治療経験をもとに講義を行う。）

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

科目名 (はりきゅう実技Ⅲ (臨床実習前施術実技試験))

回数	授業内容
1	体幹の触診① (1) 骨
2	体幹の触診① (2) 筋
3	体幹の触診① (3) 小テスト 4 5 分
4	頭頸部の触診① (1) 骨
5	頭頸部の触診① (2) 筋
6	頭頸部の触診① (3) 小テスト 4 5 分
7	上肢帯の触診① (1) 骨
8	上肢帯の触診① (2) 筋
9	上肢帯の触診① (3) 小テスト 4 5 分
10	上肢の触診① (1) 骨
11	上肢の触診① (2) 筋
12	上肢の触診① (3) 小テスト 4 5 分
13	下肢帯の触診① (1) 骨
14	下肢帯の触診① (2) 筋
15	下肢帯の触診① (3) 小テスト 4 5 分
16	下肢の触診① (1) 骨
17	下肢の触診① (2) 筋
18	下肢の触診① (3) 小テスト 4 5 分
19	体幹の触診② (1) 骨
20	体幹の触診② (2) 筋
21	体幹の触診② (3) 小テスト 4 5 分
22	頭頸部の触診② (1) 骨
23	頭頸部の触診② (2) 筋
24	頭頸部の触診② (3) 小テスト 4 5 分
25	上肢帯の触診② (1) 骨
26	上肢帯の触診② (2) 筋
27	上肢帯の触診② (3) 小テスト 4 5 分
28	上肢の触診② (1) 骨
29	上肢の触診② (2) 筋
30	上肢の触診② (3) 小テスト 4 5 分
31	下肢帯の触診② (1) 骨
32	下肢帯の触診② (2) 筋
33	下肢帯の触診② (3) 小テスト 4 5 分
34	下肢の触診② (1) 骨
35	下肢の触診② (2) 筋
36	下肢の触診② (3) 小テスト 4 5 分

シラバス（授業計画書）

科目名（ はりきゅう臨床実習Ⅰ ）

学科名 鍼灸科

学 年 1 年

1 授業の内容

基本的な患者対応や施術所における業務を体験する。
施術に必要な筋の触診練習を繰り返し行う。

2 到達目標

- ・施術者としてのマナーを身につけ、自己管理ができる。
- ・クラスメートとコミュニケーションをとり、協力的な働きかけができる。
- ・施術に必要な筋の名前、部位を覚えて、触診ができる。

3 授業の方法

施術所での患者対応を想定して体験型実習を行う。

4 成績評価方法・基準

実習中の提出物、小テストをもとに総合的に評価する。

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

実習中にわからないことや疑問に思うことがあれば、自ら調べ、質問すること。

7 使用教材，教具

「解剖生理」 医歯薬出版株式会社

8 学生へのメッセージ

卒業後の施術所勤務または開業を念頭に置いて臨み、将来の鍼灸師像を描く糧にしましょう。

9 教員氏名（ 伊藤 元太郎 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校 鍼灸科 ）

実務経験の詳細（鍼灸院にて施術者として勤務。患者への鍼灸治療経験をもとに講義を行う。）

10 特記事項

実務経験のある臨床実習指導者による実務的教育の授業

科目名 (はりきゅう臨床実習 I)

回数	授業内容
1	施術所の運営および施術の体験・練習 (1)
2	施術所の運営および施術の体験・練習 (1)
3	施術所の運営および施術の体験・練習 (1) 4 5分
4	施術所の運営および施術の体験・練習 (2)
5	施術所の運営および施術の体験・練習 (2)
6	施術所の運営および施術の体験・練習 (2) 4 5分
7	施術所の運営および施術の体験・練習 (3)
8	施術所の運営および施術の体験・練習 (3)
9	施術所の運営および施術の体験・練習 (3) 4 5分
10	施術所の運営および施術の体験・練習 (4)
11	施術所の運営および施術の体験・練習 (4)
12	施術所の運営および施術の体験・練習 (4) 4 5分
13	施術所の運営および施術の体験・練習 (5)
14	施術所の運営および施術の体験・練習 (5)
15	施術所の運営および施術の体験・練習 (5) 4 5分
16	施術所の運営および施術の体験・練習 (6)
17	施術所の運営および施術の体験・練習 (6)
18	施術所の運営および施術の体験・練習 (6) 4 5分
19	施術所の運営および施術の体験・練習 (7)
20	施術所の運営および施術の体験・練習 (7)
21	施術所の運営および施術の体験・練習 (7) 4 5分
22	施術所の運営および施術の体験・練習 (8)
23	施術所の運営および施術の体験・練習 (8)
24	施術所の運営および施術の体験・練習 (8) 4 5分
25	施術所の運営および施術の体験・練習 (9)
26	施術所の運営および施術の体験・練習 (9)
27	施術所の運営および施術の体験・練習 (9) 4 5分

シラバス（授業計画書）

科目名（ 総合領域 I（生体観察） ）

学科名 鍼灸科

学 年 1 年

1 授業の内容

人体の機能に関する理解や、医療従事者としての衛生観念を深めるため、「生理学」、「衛生学・公衆衛生学」の知識の補填を行う。

2 到達目標

- ・人体の循環、呼吸、消化、体温、排泄、内分泌の調節機能について理解する。
- ・疾病予防や健康の保持・増進について公衆衛生との関わりを理解する。

3 授業の方法

配布資料，プロジェクターによる視聴覚教材の使用。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

前期と後期それぞれ定期試験を行い、最終的に前期と後期の定期試験の平均点を成績評価とする。

6 授業時間外学習（予習・復習等）

教科書や授業内で配布した資料の復習を行うこと。

7 使用教材，教具

「生理学」医歯薬出版、「生理学インパクト」医道の日本社
「シンプル衛生公衆衛生学」南江堂

8 学生へのメッセージ

本授業では主に生理学と公衆衛生学の内容を重点的に学習します。

9 教員氏名（ 宮田 純 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校 鍼灸科 ）

実務経験の詳細（ 鍼灸院にて施術者として勤務。患者への鍼灸治療経験をもとに講義を行う。 ）

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

科目名 (総合領域 I (生体観察))

回数	授業内容
1	生理学 生理機能の特徴
2	公衆衛生学 衛生学・公衆衛生学の意義
3	生理学 体液の組成と働き
4	公衆衛生学 健康の概要
5	生理学 血液の組成と働き
6	公衆衛生学 健康管理
7	生理学 止血
8	公衆衛生学 衛生行政
9	生理学 心臓の構造と働き
10	公衆衛生学 食品と栄養
11	生理学 血管の構造と働き
12	公衆衛生学 日常生活環境
13	生理学 血圧
14	公衆衛生学 環境問題
15	生理学 循環調節
16	公衆衛生学 産業保健の意義
17	生理学 リンパ系
18	公衆衛生学 労働災害とその対策
19	生理学 呼吸器
20	公衆衛生学 精神保健の意義
21	生理学 呼吸運動
22	公衆衛生学 精神障害の現状と分類
23	生理学 呼吸の反射性調節
24	公衆衛生学 母子保健の意義
25	生理学 消化と吸収
26	公衆衛生学 乳幼児の健康
27	生理学 消化液
28	公衆衛生学 学校保健の意義
29	生理学 肝臓の働き
30	定期試験
31	定期試験
32	答案返却および解説
33	生理学 摂食の調節
34	公衆衛生学 感染症の種類 (1)

35	生理学 栄養素の働き
36	公衆衛生学 感染症の種類（2）
37	生理学 エネルギー代謝
38	公衆衛生学 感染症予防の原則
39	生理学 各栄養素の働きと代謝
40	公衆衛生学 免疫
41	生理学 体温調節
42	公衆衛生学 消毒法
43	生理学 体熱の産生と放散
44	公衆衛生学 消毒の種類（1）
45	生理学 発汗とその調節
46	公衆衛生学 消毒の種類（2）
47	生理学 腎臓の構造
48	公衆衛生学 消毒の実際
49	生理学 腎臓の働き
50	公衆衛生学 院内感染の予防
51	生理学 尿生成
52	公衆衛生学 医療廃棄物
53	生理学 蓄尿と排尿
54	公衆衛生学 疫学概念と意義
55	生理学 ホルモンの特徴
56	公衆衛生学 疫学調査研究
57	生理学 ホルモンの種類とその働き（1）
58	公衆衛生学 保健統計の意義
59	生理学 ホルモンの種類とその働き（2）
60	公衆衛生学 主要な保健統計指標
61	定期試験
62	定期試験
63	答案返却および解説
64	答案返却および解説